ティーチング・ステートメント

所属　商学科
名前　高津　勝
作成日　2020 年 3 月 13 日

【責任】

商学科に所属し、学部必修科目である会計学基礎、専門科目である会計学１・２及び会計監査論の授業を担当しているほか、会計制度の研究を中心としたゼミ活動を指導している。

また、学生のキャリア形成の支援活動として、各部授業以外に日本商工会議所簿記検定試験 3 級講座も担当している。

以上の講座等における指導を通じて、本学の教育理念に沿って私自身の職務経験を教育に生かすことが責務であると考えている。

【理念】

会計は、企業等の組織的な活動に必要不可欠であるが、ICT や AI の進展でコンピュータ中心の業務となると予想されている。しかし、会計処理の基本・根本的な判断は人間でなければできないことから、その判断を迅速かつ的確に行える能力が求められている。

また、グローバル化した経済社会に求められる会計業務では、従来からの日本ならではの会計制度に関する知識のほか、IFRS（国際会計基準）に基づいた会計処理や報告に関する知識の習得・理解が求められている。

したがって、学生には、会計の学びを通じて、変化の激しい経済社会にあって、多様な価値観を受容しつつ、グローバル化にも対応できるように、生涯において会計分野に興味を持ち学び続けられる人材となってほしいと考えている。

【方針・方法】

（概要）

企業活動に必要不可欠な会計は、ICT や AI の進展や経済社会のグローバル化の影響を受けて変化している現在、会計知識や関連知識を学び続けていく人材が求められており、次の掲げる方針・方法によって学生を育成していく。

（方針１）会計に関する基礎知識を確実に習得し、将来にわたって様々な考え方が示されている中で、変化に対応し応用できるように指導する。

方法１：演習を通じて会計の基礎概念・基礎知識を反復学習する。

方法２：学習成果を小テスト等で的確に測定し、フィードバックする。

方法３：簿記検定試験や資格試験（税理士・公認会計士）に積極的にチャレンジするようしむけ、合格に導くことで会計能力が高まりを自覚させ、自信を持たせる。

方法４：会計理論がどのように展開されるのかを理解させ、論理的説明能力を高め、卒論に結び付ける。

（方針２）企業活動は組織的な活動であり、日ごろから組織的に活動できる能力を実社会に出る前から養成する必要がある。このため、ゼミ活動を通じて他者を理解しつつ、自らの考えを適切に伝えられ、自らが組織的存在であることを自覚させる。

方法１：講義・ゼミ活動では、積極的な発言を求める。

方法２：ゼミ課題を主体的に選択させ、説明させ・議論させる。

方法３：社会人としての常識である時間厳守・挨拶励行を徹底する。

（方針３）グローバル化の進行に伴い、日本の会計制度と IFRS（国際会計基準）の知識等が求めれていることを理解させ、これらに関する知識を習得させる。

方法１：基礎概念や報告内容の違いを繰り返し学習させる。

方法２：会計基準の内容を正確かつ深く理解させるため、輪番で音読させる。

方法３：現在の会計で問題となっている点に関する文献を収集・検討させる。

（方針４）情報化社会にあっては、多量の情報（フェイクニュースも含む）が社会に流布されていることを踏まえ､信頼できる情報を選択･利用できる能力を身につけさせる。

方法１：新聞やニュースに関する情報を積極的に紹介し、興味を持たせる。

方法２：フェイクニュース等での誤り・情報不足を研究資料等から論理的に検証させる。

【評価・成果】

・　私の実務経験が学生の知的興味や学習意欲向上につながるものと感じている。

・　会計学の授業および日本商工会議所簿記検定試験 3 級講座の受講生から多数ゼミ希望者があった。

・　少人数授業であった会計監査論では､私の経験や実務上の問題を取り上げつつ講義を行ったことで受講者の学習意欲の高まりがみられ、中間試験および期末試験結果が極めて良好であった。

【目標】

次に掲げる２つの目標を達成することで、本学における会計学キャリアを積む学生を増やし、会計キャリアの高い学生を社会（税理士・公認会計士等の専門職従事者を含め）に送り出す。

1　本学全体の学生の簿記・会計基礎力を向上させるため、日本商工会議所簿記検定試験 3 級講座の受講生の合格率を上げ、次のキャリア形成コースに導く。

2　グーグルクラスルーム等のツールを積極的に活用して小テスト・演習を繰り返し、会計知識の理解度や会計処理能力が向上したことを学生自らが把握できるようにする。